

神経伝導検査における正中神経遠位潜時の正常値の検証に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年9月5日（承認）～ 2025年3月31日

〔研究課題〕 神経伝導検査における正中神経遠位潜時の正常値の検証

〔研究目的〕 神経伝導検査は、種々の神経筋疾患の診断に必須の検査法として広く用いられております。しかし、検査における正常異常を判定するためには、正常値が必要となります。正常値の構築は通常健常者の方々のデータを用いて行われますが、小児など健常者のデータを十分に確保できない集団においては正常値構築が困難という課題がありました。近年このような問題点を克服するための新たな正常値構築の手法（Extrapolated Reference Values: E-Ref）が報告されております。今回我々はこの手法を当施設の神経伝導検査における正中神経遠位潜時のデータを用いて検証し、E-Refの有用性や問題点を検証することを目的としております。

〔研究意義〕 正常値構築において E-Ref が有用であることが分かれば、他の検査データへの応用も期待でき、様々なパラメータの正常値構築が可能となり、より正確な診断に役立つと考えます。

〔対象・研究方法〕 2019年1月から2021年10月までの期間に、当施設の臨床検査技師が行った神経伝導検査所見を後ろ向きに検討し、集計します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院神経内科

〔個人情報の取り扱い〕 収集したデータは、個人毎に情報を加工したデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して本研究に参加する研究者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式をDVD-Rに記録し、封かん用封筒に詰め、帝京大学臨床研究センター（以下、「TARC」）にて保管します。TARCによる保管期間は研究終了から10年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARCにより適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学医学部神経内科・臨床助手 立山佳祐

研究分担者：帝京大学医学部神経内科・主任教授 園生雅弘

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科 (03-3964-1211) [内線 7685]